

株主のみなさまへ

第48期中間期 営業のご報告

2008年4月1日～2008年9月30日

会社紹介	2
決算ハイライト	3
社長メッセージ	4
営業活動のご報告	7
クローズアップ:中国市場	8
新製品紹介	10
シマセイキ開発の軌跡	11
連結財務諸表	12
会社概要	14
株式概要	15





当社の歩みは、1962年、若きエンジニアであった現社長・島正博が、「手袋編機の全自動化」という難課題にチャレンジするため、小さな町工場を和歌山市に起こしたことから始まりました。

この世界初への挑戦は、さまざまな難問を克服しながら3年後に成功。その豊かな発想力と情熱により、衣料用編機の分野で未開拓であった機械技術と電子技術を融合した「コンピュータ横編機」を開発、数々の新製品を創出しました。

先発の海外メーカーを凌駕し、世界のトップランナーへと躍り出た当社は、1995年、完全無縫製型の「ホールガーメント®横編機」を発表。ニット業界を、クリエイティブな発想を活かす知識集約型産業に変革する第一歩を築きました。

最先端のメカトロニクス技術を応用した横編機、コンピュータ技術を駆使したデザインシステム。この2つの領域の融合に加え、製品活用のために蓄積したノウハウを提案できることが当社の強みです。

会社創立45周年を経過した当社は、競争力ある多様な製品群に加え強固な販売ネットワークを構築し、製品の大部分を海外で販売するグローバル企業として、世界のニット・アパレル業界の発展に貢献しています。

これからも顧客ニーズを先取りする総合的な技術・サービスの提供を通じて、衣の文化を創造し、世界中の人々の心を豊かにすることを目指します。

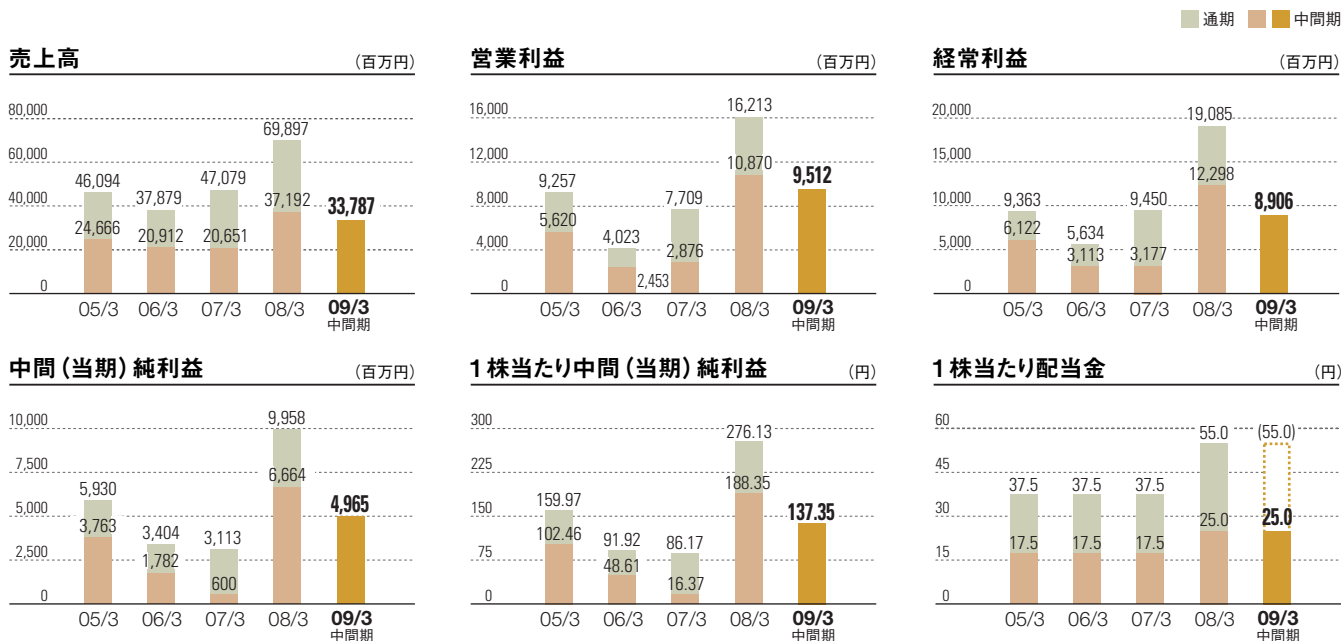
Ever Onward —— 限りなき前進

一貫して変わらないこの経営理念のもと、世界にない新技術の開発を目指し、最高機能の製品を経済的な価格で提供する総合メカトロニクス企業として、ユーザー業界にイノベーションを起こし続けています。

当社の技術が、世界中で 衣の文化を支えています。

決算ハイライト(連結)

科 目		当中間期 2008年9月期	前中間期 2007年9月期	前 期 2008年3月期	前年同期比
売上高	(百万円)	33,787	37,192	69,897	△ 9.2%
営業利益	(百万円)	9,512	10,870	16,213	△ 12.5%
経常利益	(百万円)	8,906	12,298	19,085	△ 27.6%
中間(当期)純利益	(百万円)	4,965	6,664	9,958	△ 25.5%
1株当たり中間(当期)純利益	(円)	137.35	188.35	276.13	△ 27.1%
総資産	(百万円)	133,517	141,712	133,745	△ 5.8%
純資産	(百万円)	101,888	104,607	101,647	△ 2.6%



(注) 当連結会計年度より四半期連結財務諸表規則に従い四半期連結財務諸表を作成していますが、本報告書では前連結会計年度に準じて、四半期を中間期と読み替えて表示しています。

将来の見通しについて

本報告書で記載されている将来に関する予測については、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいて行った予測であり、実際の業績は、さまざまな要素により、これら予測とは異なる結果となる場合があることをご承知おください。



不透明感が強まる厳しい事業環境のなか、
当社の技術力を結集し、製品・サービスの
市場への浸透を図ります。

代表取締役社長 島 正博

過去最高業績の前期と比べると、当中間期(2008年4月～9月)の事業環境は、期の後半にかけて大きく変化し、中国を中心に設備投資を見合わせる動きが広がりました。

こうした逆境の時こそ、それを突破するモノづくり力が求められます。中間期の業績とともに、取り組みの内容についてご報告します。

Q 中間期の業績について説明してください。

A 主力市場である中国、香港のユーザーが設備投資を見合わせたことにより、減収減益となりました。

この中間期は、サブプライムローン問題による金融不安から、米国の消費が低迷しました。米国へのニット製品の最大輸出国である中国、香港のユーザーでは、為替の変動や金融引締め策などの影響

もあり設備投資意欲が減退しました。特に第2四半期にかけてこうした動きが顕著となり、景気減速や不安定な為替動向など世界経済の状況も大きく変化しました。

事業別の販売状況では、コア・ビジネスである横編機事業は、欧州や中東、東南アジアのカンボジアなどでは売上が拡大しましたが、主力の中国、香港市場が減速したことから売上は減少しました。デザインシステム関連事業はアパレルCAD/CAMシステムが貢献して微増となり、手袋靴下編機事業は低調な推移となりました。

事業全体の連結業績では、売上高は337億87百万円(前年同期比9.2%減)と減収となりました。利益面でも、生産台数が減り量産効果が減退したことなどから、営業利益は95億12百万円(同12.5%減)となりました。また、想定以上に円高が進行したため為替差損が発生し、経常利益は89億6百万円(同27.6%減)、中間純利益は49億65百万円(同25.5%減)と減少しました。



2008年7月、「ITMA ASIA + CITME 2008」に出展(上海)



2008年9月、ニューヨークで「ホールガーメント個展」を開催



Q 国内外の市場での販売状況を説明してください。

A イタリアを中心に欧州は回復基調。中国は減速傾向となりましたが、今後は内需の拡大が期待されます。

欧州市場では回復傾向が持続しました。特に主要国のイタリアでは生産回帰の機運が高まったことで、高付加価値なモノづくりに適した機種種の受注が継続し、東欧諸国の受注も増加しました。また中東では、ロシア向けなどの需要が回復したトルコの売上が拡大しました。

一方、中国、香港では欧米への輸出を中心に減速していますが、中国国内に目を向けると、ここ数年は富裕層が増加し、高級品が好まれる傾向にあります。ニット製品が消費者に普及し始めた時期でもあり、内需の拡大が期待できます。

米国は景気悪化から消費が低迷していますが、ホールガーメント[®](無縫製ニット)の浸透を図るため、ニューヨークで個展を開催するなど、積極的なPRに努めました。

生産回帰の動きが見られ始めた国内市場では、引き続き付加価値の高いモノづくりを提案し、回復を図ります。

これまで世界のニット生産は、中国に一極集中していた状況でしたが、今後、中国の内需やユーロ安を背景とした欧州の輸出がともに拡大することで、バランスのとれた市場構造へと変化することも期待されます。

Q 中間期の事業動向や新たな展開を説明してください。

A 上海の展示会に出展した新型ホールガーメント横編機が高評価。下期から販売を開始します。

ニット業界は季節的な需要の変動が大きく、編機の受注時期も集中する傾向にあります。この中間期、前期に大幅に増大したコンピュータ横編機の受注に対応して生産・納品を継続したことは、フレキシブルな生産体制が確立できた証であり、成果のひとつと考えています。

新製品としては、ホールガーメント横編機の新型機「MACH2[®]」を開発し、世界に先駆けて中国・上海の展示会で披露しました。従来機の2倍以上という生産効率はユーザーから非常に高い評価を受けており、下期から量産ラインに投入します。これまでホールガーメント横編機の販売を行っていなかった中国、香港でも販売を開始しますので、その動向にはご注目いただきたいところです。

デザインシステム関連事業では、三次元でのバーチャルサンプルが作成できる「SDS[®]-ONE APEX」が好評でした。また布帛(織物)業界向けの生地自動裁断機「P-CAM[®]」が好調で売上を伸ばしました。

また、当期に子会社化した東洋紡糸工業とは、ホールガーメントに適した編みやすい糸の開発を始めています。編機メーカーの視点を活かしたビジネスモデルを展開し、ユーザーへのトータルな提案も進めていきます。

なお中国では、本年5月に四川大地震が発生しました。中国は重要



救援物資を提供するため四川大地震の被災地に向かう訪中団



SDS-ONE APEX



市場であり、当社は現地にテント(1千万円相当)と日本赤十字社を通じて義援金2千万円を寄付しました。現地の日も早い復旧を願っています。

Q

**株主への利益還元について
説明してください。**

A

**期初計画どおりの
年間配当を予定しています。**

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと考え、長期にわたって安定した配当を継続することを重視しています。

中間配当金については期初の計画どおり、前期に実施した記念配当2円50銭を普通配当に組み入れ、1株につき25円とさせていただきます。期末配当金は1株につき30円とし、年間配当金は55円とする予定です。

また、株主への利益還元を目的として自己株式163万株を取得し、株主価値の向上に努めました。同時に100万株を消却することで株式の需給悪化懸念の解消にも努めました。

Q

**通期の業績について、
その見通しを説明してください。**

A

**厳しい事業環境が続くと予想しますが、
さまざまな取り組みを力強く推進していきます。**

金融不安が世界中に波及し、不安定な為替動向や原材料価格

の高騰も要因となって、高い経済成長が続いていた新興国を含めて世界的な景気後退が懸念されています。

ニット業界においても、主力の中国、香港市場をはじめ当面は厳しい状況が続くと予想しています。コストダウンをさらに徹底して、原価低減と経費削減を図っていくことはもちろんですが、当社グループは、業界最高の技術水準を結集した新製品の投入や、きめ細かいユーザーフォローによって、世界の市場で積極的な販売拡大策を推進していきます。本年7月に開設した中国の上海トレーニングセンターのように、技術支援に加え、モノづくりの面でもユーザーをサポートすることが特に重要だと考えています(P9参照)。

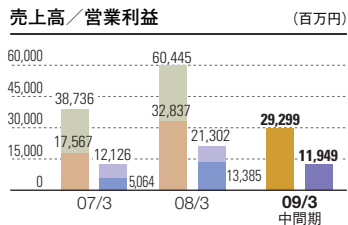
下期の業績は不透明感が強いものの、ニット製品の需要期を控えた時期でもあることから、現時点では7月31日に発表した通期業績予想の修正数値である連結売上高620億円、営業利益140億円、経常利益155億円、当期純利益85億円との見込みを変更していません。

かつて日本経済の転換点となったオイルショックの際には、同業他社が規模の縮小を図る中で、当社は新しい製品開発に傾注しました。そこから誕生した革新的なコンピュータ横編機は、本年5月に販売累計10万台を達成し、世界標準機となりました。逆境の時こそ、それを突破する本物のモノづくりが求められ、当社の真価が発揮できると考えています。

株主の皆様には、なにとぞ長期的な視点から当社事業の成果にご期待いただき、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

営業活動のご報告(連結)

横編機事業



当社のコア・ビジネスである横編機事業では、主力市場である中国、香港において、人件費の高騰を契機とした手動式からコンピュータ横編機への転換需要は底堅いものがあります。しかし、ニット製品の輸出先である米国の個人消費の減退、人民元高、金融引締め策などが影響し、設備投資を見送る動きが顕著となりました。特に第2四半期は中国本土での減速感が強く、売上は減少しました。

同市場では、欧州や中国メーカーとの競合が一層激しさを増していますが、当社の「SSG®」「SIG®」シリーズは技術面で圧倒的な優位性を維持しており、現地販売子会社と技術・販売両面の連携を強化し、きめ細かいサービス体制を拡充しています。また、東南アジアのカンボジアでは好調な設備投資が進められています。

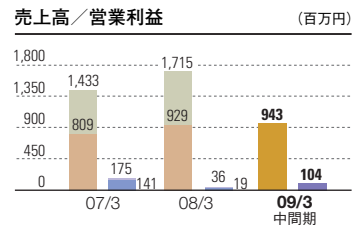
欧州では、イタリアの主力ユーザーを中心に高い技術力と独創的な企画提案力を活用した生産体制が見直されました。ホールガメント®横編機だけでなく、従来型コンピュータ横編機の中でも付加価値の高い製品づくりが可能な「SIG」シリーズが評価され、現地販売子会社のユーザーフォローも奏効し、売上は増加しました。

中東のトルコでは、ロシアなどへのニット製品輸出が回復し、新規の設備投資が継続して売上は増加基調となりました。

国内市場においては、ニット製品の輸入比率が高水準で推移する厳しい事業環境を反映し、前年同期並みの売上に留まりました。

これらの結果、横編機事業全体の売上高は292億99百万円(前年同期比10.8%減)、営業利益は119億49百万円(同10.7%減)となりました。

デザインシステム 関連事業

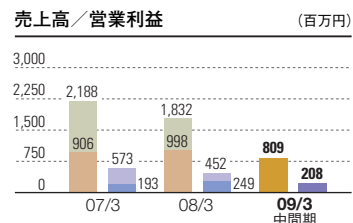


デザインシステム関連事業では、ニット・アパレル業界におけるトータルソリューションツールとして「SDS®-ONE」の提案販売に傾注し、中国、香港市場で売上を伸ばしました。

国内市場では、アパレルCADシステムと生地自動裁断機「P-CAM®」シリーズを組み合わせた一貫生産システムを布帛(織物)業界に提案販売し、売上拡大と利益回復に貢献しました。

これらの結果、売上高は9億43百万円(前年同期比1.5%増)、営業利益は1億4百万円(同445.1%増)となりました。

手袋靴下編機事業



手袋靴下編機事業では、主力である韓国やアジアの新興国での売上は伸びたものの、全体としては模倣機の影響が根強く低調な推移となり、売上高は8億9百万円(前年同期比18.8%減)、営業利益は2億8百万円(同16.7%減)となりました。

その他事業

部品販売事業やニット製品販売事業、カシミヤ糸などの繊維原料製造事業など、その他事業の売上高は27億33百万円(前年同期比12.6%増)、営業利益は69百万円(同281.5%増)となりました。



in China

中国市場の動向と今後の事業展開

世界のニット工場・中国では、販売子会社「島精榮榮有限公司」を中心に直販体制を推進・強化しています。注力市場の現況をレポートします。



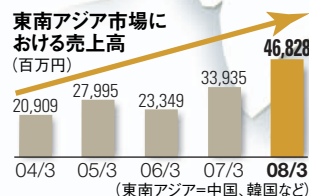
島精榮榮有限公司
(SHIMA SEIKI WIN WIN LTD.)

CEO
梅田 郁人

Q. この中間期、中国市場はどのように変化しましたか？

人件費の高まりや熟練技術者の不足などから、中国ではコンピュータ横編機が飛躍的な普及を遂げつつあります。

しかしながら、サブプライムローン問題を発端とする米国での個人消費減速や人民元高などの影響を受けて、中国最大の産地である香港・華南地域を中心に設備投資が冷え込んだことは確かです。ユーザーは「機械化に乗り遅れると淘汰される」と焦りを抱えているものの、現在の為替局面では輸出しても利益低下を招くため、金融引締め動向もあり、設備投資については市場の変化を見守っているという状況です。一方では、欧州や国内向けの需要開拓を図る動きも出てきています。



Q. 今後の事業展開について説明してください。

ニット生産において、後工程(縫製)も含めたトータルコストの削減は重要な課題と捉えられています。その意味で、新たに中国市場に投入するホールガーメント^{マッパ}横編機「MACH2[®]」には期待が高まっています。全く新しいアイテムを生み出せることもセールスポイントです。

ユーザーへのサポート体制としては、技術支援だけでなく、魅力あるニット製品づくりへの企画提案も欠かせません。新設した上海トレーニングセンターは、技術に加えファッショントレンドの情報発信拠点としてデザインソースの供給も進めています。

商品企画段階からユーザーにとってメリットのある仕組みづくりを提案していくことで、中国市場での伸張を目指していきます。

中国の主要マーケット

- ① 北京、海陽、張家港、上海、桐郷、台州
- ② 東莞、泉州
- ③ 香港本社

- ① 華北エリア (北京、内モンゴル) カシミア産地で高級品を供給。近年、生産増大。
- ② 華東エリア (上海、浙江省、江蘇省) 欧米向けのほか内需が増大し、高い伸び率。新興企業中心。
- ③ 華南エリア (香港、広東省、福建省) 豊富な労働力を背景とした主力生産地域。欧米向けが中心。



ITMA ASIA + CITME 2008に出展

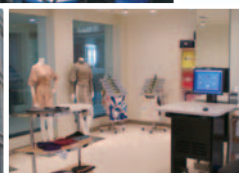
2008年7月、上海で世界最大規模の国際繊維機械見本市「ITMA ASIA + CITME 2008」が開催されました。

当社は、中国の展示会としては初めてホールガーメント横編機を出展し、その最新鋭機「MACH2」を世界に先駆けて披露しました。これまでにない高生産性、高付加価値にユーザーの評価は高く、中国市場での内需拡大に最適な機種として、その将来性を強く感じました。

※ ITMA ASIA + CITME 2008：過去2回はシンガポールで開催されてきた「ITMA ASIA」と、「中国国際紡織機械展(CITME)」を統合した初めての展示会。30の国・地域から1300社以上が出展。中国で開催された繊維機械展としては過去最大で、来場者は約8万人。

2006年以降、中国本土のユーザーに直接販売する体制を整えてきた当社は、この展示会を通じてユーザーとのコミュニケーションをさらに促進することができ、確かな手応えのもとで販売拡大に取り組んでいきます。

上海にトレーニングセンター&ショールームを開設



当社の上海現地法人は、2008年7月末、最大市場の中国で、横編機操作技術の普及を進めるトレーニングセンターを開設しました。同社では、本社トータルデザインセンターとの緊密な連携を図りながら、ホールガーメント横編機の技術指導にも力を入れ、拡販を図る予定です。これにより、中国市場でも発展めざましい華東(上海)地域におけるサービス体制がさらに強化できることになります。

この施設には、トータルニットシステムを提案するショールームおよびデザインセンター機能も兼ね備えています。世界各地の当社デザインセンターと連動して、最新のファッショントレンドを発信していきます。

NEW

技術の粋を集めた超高速 マッハ ホールガーメント[®]横編機「MACH2[®]」を発表

当社は2008年7月、上海で開催されたITMA ASIAで、ホールガーメント横編機の新機種「MACH2」を初めて正式発表し、会場の大きな注目を集めました。最高編成速度は毎秒1.6メートル。シンプルなセーターであれば1枚が20分で編めるスピードで、従来機の2倍以上の生産効率を実現したものです。

横編機業界では、以前から編成速度の高速化が技術課題として挙げられていました。当社では2005年以降、「速度を2倍に、あるいは価格を半分に」を合言葉に開発に取り組み、難易度の高いホールガーメント機の高速化を実現させました。昨年、ミュンヘンのITMA展では開発段階のプロトタイプを展示しましたが、高速時の安定性をさらに向上させ、今回、満を持して発表したものが「MACH2」です。

ホールガーメント横編機は構造が複雑なため、編成速度のアップは極めて挑戦的な課題でしたが、当社技術陣は新たな機構やシステムを開発して、その難課題をクリアしました。高速性に加え、さらなるニット製品の高品質化も実現した「MACH2」は、中国、香港市場への投入を見込み、下期からの量産化を進めています。

開発リーダーに聞く

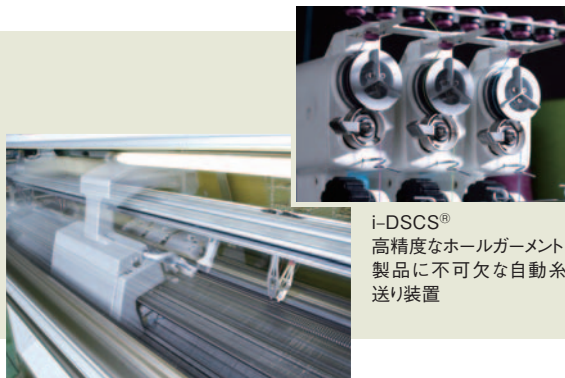
人の力、技術の力で超えた“限界”

限界とされていた最高編成速度をさらに速くして生産効率を2倍にする。この困難な課題を解決する糸口は、駆動モーターのパワーアップだけではなく、ソフトを含めたさまざまな機構の改良成果を集積するという発想の転換にありました。

針や糸の供給装置まで新しく開発して、試作機の製作まで2年、さらに量産化まで1年という短期間で成功を収めることができた背景には、人にしかできない匠の技を兼ね備えた当社の総合的な技術力があったからだと感じています。



メカ口開発部 係長
山野 浩稔



i-DSCS[®]
高精度なホールガーメント
製品に不可欠な自動糸
送り装置

コンピュータ横編機 シェアトップの原点「SNC」の誕生

2008年5月、当社は累計10万台目となるコンピュータ横編機を出荷、
世界シェアNo.1の歴史は、30年前に発売した「SNC」から始まりました。



「コンピュータ横編機」と銘打った編機が世界で初めて登場したのは、1975年、ミラノのITMA展でのこと。オイルショックが世界を覆い、大量生産型のビジネスモデルが通用しなくなった時代でした。先行欧州メーカーが発表したこの編機は、それまでのものに比べ2倍程度の値段であったものの、柄を組む工程が合理化されただけで、千本を超える針の入れ替えは相変わらず必要でした。業界でも柄組みのサンプル専用機と位置付けられ、普及にはほど遠い状況でした。

当時、島正博(現社長)は、全く異なった発想から開発を進めていました。手動式や機械式に代わって、ニット生産の新たな主役となる横編機です。1978年3月、当社はジャカード・コンピュータ横編機「SNC」を東京国際ニット機器展で発表。「先行機に比べて性能は倍で、価格は半分」と前評判は高く、当社ブースには連日、大勢の来場者が押し寄せました。

「SNC」の大きな長は、針の動きや糸の選択、生産管理までコンピュータ制御としたこと。生産時間を大幅に短縮した上で、多様な柄組みを可能にし、しかも価格を750万円としたのです。

性能の高さに比べて低く抑えられた価格に、業界からは無謀な挑戦であるとの声もありました。

第1号機が出荷されたのは、1978年の暮れ。時代が求める多品種少量・短サイクル生産を可能にした「SNC」とその後継機種「SEC」は、多くのニットメーカーに受け入れられたヒット商品となり、量産化を実現。低価格を危惧した業界の“常識”は覆されました。

以降、当社は1989年に「SES®」、1995年に「SWG®(ホールゲーム®横編機)」、2006年には「SSG®」「SIG®」を開発し、横編機の技術を革新しながら世界シェアトップの地位を揺るぎないものとしてきました。

コンピュータ横編機の出荷が8万台を達成したのは2006年5月。それからわずか2年での10万台達成は、この間の販売スピードの加速を物語るとともに、「最高機能の製品を経済的な価格でお届けする」という当社の想いが世の中に受け入れられた結果だと考えています。

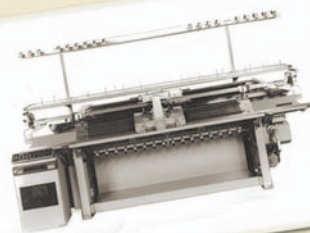


78年3月 東京国際ニット機器展に際発したばかりのSNCを出展

1978



12月24日 初出荷を祝う社員一同



連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期	科 目	当中間期	前中間期	前期
	2008年9月30日現在	2007年9月30日現在	2008年3月31日現在		2008年9月30日現在	2007年9月30日現在	2008年3月31日現在
流動資産	87,135	93,602	86,918	流動負債	26,015	26,580	23,367
現金及び預金	24,588	22,967	23,068	支払手形及び買掛金	7,698	10,118	9,773
受取手形及び売掛金	44,261	44,702	41,204	その他	18,317	16,461	13,593
その他	20,594	28,589	24,870	固定負債	5,613	10,524	8,731
貸倒引当金	△ 2,309	△ 2,656	△ 2,226	新株予約権付社債	2,807	4,673	2,909
固定資産	46,381	48,110	46,827	その他	2,806	5,851	5,821
有形固定資産	22,689	21,828	22,859	負債合計	31,629	37,104	32,098
土地	10,756	10,669	10,491	株主資本	106,395	107,617	106,857
その他	11,932	11,159	12,368	資本金	14,859	14,859	14,859
無形固定資産	9,288	10,527	9,210	資本剰余金	21,724	22,233	22,396
のれん	9,153	10,368	9,066	利益剰余金	75,544	72,676	74,924
その他	134	159	144	自己株式	△ 5,732	△ 2,152	△ 5,322
投資その他の資産	14,404	15,753	14,757	評価・換算差額等	△ 9,127	△ 7,348	△ 9,003
投資有価証券	7,178	9,067	7,513	その他有価証券評価差額金	△ 772	△ 69	△ 572
その他	9,425	8,181	9,460	土地再評価差額金	△ 7,392	△ 7,518	△ 7,392
貸倒引当金	△ 2,199	△ 1,494	△ 2,216	為替換算調整勘定	△ 962	239	△ 1,038
資産合計	133,517	141,712	133,745	少数株主持分	4,619	4,338	3,792
				純資産合計	101,888	104,607	101,647
				負債純資産合計	133,517	141,712	133,745

連結損益計算書

(百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期
	2008年4月1日から 2008年9月30日まで	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
1 売上高	33,787	37,192	69,897
売上原価	15,727	16,836	34,131
売上総利益	18,059	20,355	35,766
販売費及び一般管理費	8,546	9,484	19,552
2 営業利益	9,512	10,870	16,213
営業外収益	551	1,559	3,166
営業外費用	1,157	132	294
3 経常利益	8,906	12,298	19,085
特別利益	128	-	-
特別損失	162	215	918
税金等調整前中間(当期)純利益	8,872	12,082	18,167
法人税、住民税及び事業税	2,871	4,884	8,488
法人税等調整額	348	△ 362	△ 1,151
少数株主利益	687	896	871
中間(当期)純利益	4,965	6,664	9,958

POINT 1 売上高

当社グループのコア・ビジネスである横編機事業で、主力市場の中国、香港において、米国向けニット製品輸出の減少や人民元高、さらには金融引締めなどが影響し、設備投資を見合わせる動きが広がったことなどにより、全体の売上高は337億87百万円(前年同期比9.2%減)と減収となりました。

POINT 2 営業利益

売上高の減少および生産台数の減少に伴う売上総利益率の低下などにより、営業利益は95億12百万円(前年同期比12.5%減)となりました。

POINT 3 経常利益

円高の進行により為替差損が発生し、89億6百万円(前年同期比27.6%減)となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期
	2008年4月1日から 2008年9月30日まで	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
4 営業活動による キャッシュ・フロー	747	14,252	21,747
5 投資活動による キャッシュ・フロー	1,548	△ 6,554	△ 3,321
6 財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,611	△ 990	△ 10,883
現金及び現金同等物に 係る換算差額	332	37	△ 853
現金及び現金同等物の 増加額	1,016	6,744	6,689
現金及び現金同等物の 期首残高	22,643	15,954	15,954
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	23,660	22,698	22,643

POINT 4 営業活動によるキャッシュ・フロー

法人税等の支払などの資金支出がありました。7億47百万円の資金の増加となりました。

POINT 5 投資活動によるキャッシュ・フロー

有価証券の売却などにより、15億48百万円の資金の増加となりました。

POINT 6 財務活動によるキャッシュ・フロー

自己株式の取得、配当金の支払などにより16億11百万円の資金の減少となりました。

(注) 詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

会社概要

会社概要 (2008年9月30日現在)

商号	株式会社島精機製作所
(英文表記)	SHIMA SEIKI MFG., LTD.
本社	和歌山市坂田85番地
創立	1962年2月4日
資本金	148億5,980万円
従業員	1,136名(連結1,745名)
事業内容	コンピュータ横編機 コンピュータデザインシステム アパレルCAD/CAMシステム 手袋編機、靴下編機

事業所 (2008年9月30日現在)

本社	和歌山市坂田85番地
支店	東京支店 (東京都中央区) 大阪支店 (大阪市北区) 名古屋支店 (名古屋市中区) 泉州支店 (大阪府泉大津市)
営業所	山形営業所 (山形県山形市) 福島営業所 (福島県伊達市) 新潟営業所 (新潟県五泉市) 太田営業所 (群馬県太田市) 甲府営業所 (山梨県中巨摩郡昭和町) 四国営業所 (香川県東かがわ市)
海外支店	台北支店 (台北市)

役員 (2008年11月1日現在)

地位	氏名	担当または主な職業
代表取締役社長	島 正博	
専務取締役	田中 雅夫	総務部、内部監査室、経理部担当
常務取締役	岩倉 煌一	営業部担当兼経営管理部長
常務取締役	島 三博	知的財産部、 トータルデザインセンター担当兼 グラフィックシステム開発部長
取締役	京谷 実	システム生産技術部担当兼 生産技術部長
取締役	森田 敏明	資材部長
取締役	和田 隆	製造技術部長
取締役	片桐 正二郎	物流部担当兼企画部長
取締役	梅田 郁人	輸出部担当兼 島精榮有限公司CEO
取締役	藤田 紀	総務部長
取締役	有北 礼治	制御システム開発部担当兼 メカトロ開発部長
常勤監査役	大川 修	
常勤監査役	冲殿 俊幸	
監査役	的場 悠紀	弁護士
監査役	八杉 昌利	税理士

(注) 監査役 的場悠紀、八杉昌利の両氏は、社外監査役であります。

連結子会社 (2008年9月30日現在)

株式会社シマファインプレス	(和歌山県和歌山市)
株式会社ニットマック	(和歌山県和歌山市)
ティーエスエム工業株式会社	(和歌山県和歌山市)
株式会社海南精密	(和歌山県海南市)
株式会社ツカダシマセイキ	(群馬県太田市)
東洋紡糸工業株式会社	(大阪府泉北郡忠岡町)
株式会社マーキーズ	(和歌山県和歌山市)
SHIMA SEIKI EUROPE LTD.	(イギリス)
SHIMA SEIKI U.S.A. INC.	(アメリカ)
島精榮有限公司 (SHIMA SEIKI WIN WIN LTD.)	(中国・香港)
SHIMA - ORSI S.p.A.	(イタリア)
NOVA KNITS INC.	(アメリカ)
島精榮(上海)貿易有限公司 (SHIMA SEIKI WINWIN SHANGHAI LTD.)	(中国)

株式概要

株式の状況 (2008年9月30日現在)

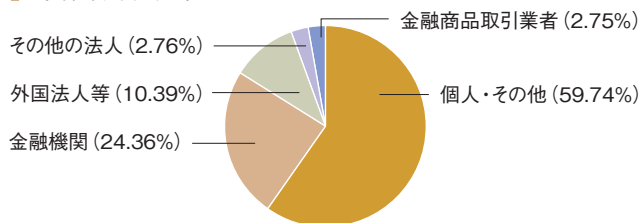
- ① 発行可能株式総数…………… 142,000,000株
- ② 発行済株式の総数…………… 36,600,000株
- ③ 当中間期末株主数…………… 18,021名
- ④ 大株主

(千株未満切捨て)

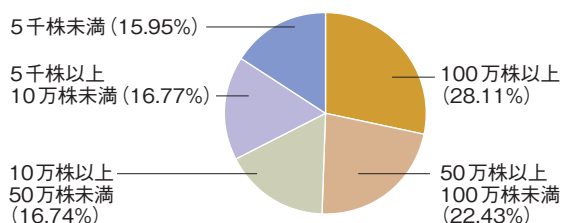
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
島 正 博	3,670	10.50
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,922	5.50
島 三 博	1,825	5.22
株式会社紀陽銀行	1,220	3.49
株式会社三菱東京UFJ銀行	880	2.52
シマセイキ社員持株会	814	2.33
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4G)	779	2.23
島 節 子	726	2.08
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	725	2.07
和島興産株式会社	720	2.06

(注) 当社は、自己株式1,650千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。
出資比率は、自己株式を控除して算出しております。

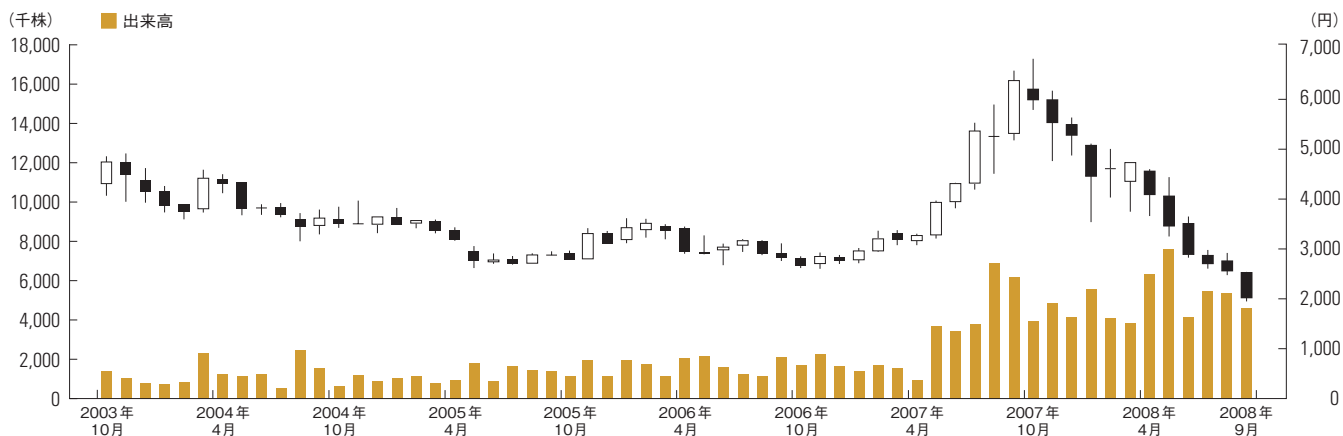
所有者別分布



所有数別分布



株価と出来高の推移 (過去5年間)



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 基準日 3月31日
開催日 毎年6月

配当金受領株主確定日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

公告方法 電子公告
下記当社ホームページに掲載
(<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
(お問い合わせ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話(フリーダイヤル) 0120-094-777

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

- 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(フリーダイヤル) 0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

株主優待のご紹介

【2008年9月期のご優待】 宿泊優待割引券

当社では毎年3月末日と9月末日を基準日として、単元株主様に株主優待を実施しております。今9月期につきましては、当社グループ企業が経営する南紀白浜「ホテルマーキーズ」、「オーベルジュ サウステラス」共通の宿泊優待割引券(正規料金の30%引)を進呈いたします。

発行基準	共通優待割引券
100株以上	4枚
1,000株以上	6枚
3,000株以上	8枚

1枚で2名様までご利用いただけます。



ホテル マーキーズ
<http://www.aikis.or.jp/~marquise/>

お知らせ

「オーベルジュ サウステラス」につきましては、より快適なホテルを目指し、現在リニューアル工事を行っております。改装期間中はご利用いただくことができません。大変ご不便をおかけいたしますが、なにとぞご理解くださいますようお願い申し上げます。オープンにつきましては、改めてご連絡させていただきます。



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地

TEL (073) 471-0511 (代表)

<http://www.shimaseiki.co.jp/>

DSCS, MACH2, P-CAM, SDS, SES, SSG,
SIG, SWGおよびホールゲームは株式会社
島精機製作所の登録商標です。